



	そうふうPartⅢ	学校教育目標
爽風	創造性にあふれ 心豊かでたくましく 生きる児童の育成	目指す児童像
発行者：校長 下地美和子	・自ら学び考える子・思いやりのある子・健康でねばり強い子 ・当たり前のことを一生懸命にやる子（凡事徹底）	
★しんけんにもちあじいかしてじぶんから 明るい心 未来へつながる 下地小		

平和について～下地小の平和学習②



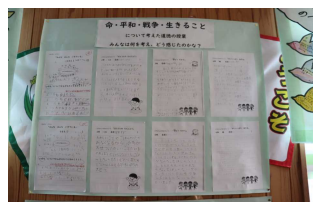
□修学旅行前、学習会

6月19日は、6年生の修学旅行前の「沖縄戦についての調べ学習発表会」を行ないました。25日の修学旅行を前にして、色々な視点で調べグループで発表し合い、学びを深めました。



□平和メッセージ

学年で、平和について考えた事を展示しました。



戦争っていやだ。平和ってなんだろう？
みんながなかよくしたらいい。やさしくしたい。
等々・・・自分なりの考えを表現し掲示しました。

□平和の作文 朗読



6月23日、宮古島市全戦没者追悼式並びに平和記念式がマティダ市民劇場にて行われました。式では、戦没者を悼み、一分間の黙祷を捧げました。そして昨年に続き本校の多和田旺誠さんが小学校代表として作文の朗読を行いました。その後高校生の作文朗読や宮古島の戦争劇もあり、戦争や平和について改めて考えさせられる内容となりました。本校からも5・6年生12名が参加し、戦争・平和について考えを深めました。

「未来へつなぐ想い」 6年 多和田旺誠

6月23日、慰霊の日。80年前の今日、沖縄の戦争は終わりました。その戦争は宮古島でもあり、まだ遺骨が見つからない家族もいるそうです。

宮古島近海の海の底に眠る遺骨は、およそ30万といわれています。戦争へ行った家族が80年経った今でも、まだ帰ってきていないのです。ぼくの会ったことのない曾祖父は、戦争に行ったそうです。命は落とさず帰ってきたそうですが、帰ってきてからも戦争の恐怖に苦しんだと聞いています。飛行機の音を聞いては、「敵が来た！」とわめき、電話線を見て、「敵が見張っている。」とはさみで切ったりしていたそうです。「戦争は人をおかしくさせる。」と曾祖母が言っていました。

慰霊の日は、沖縄戦の犠牲者を追悼し、平和を祈る日。沖縄戦で日本軍の組織的な戦争が終結した日。ぼくらは毎年、慰霊の日には空に向かって手を合わせます。そして、学校で6月になると毎年歌う「月桃」の歌。その歌の歌詞の中には「変わらぬ命、かわらぬ心」という歌詞があり、僕はその部分を大切に歌っています。命の重みも心も当時も今も変わらない、後世のぼくらは命の重さを背負っていく責任があると思っているからです。去年の合唱コンクールでは、ぼくらの学年全員で「平和の鐘」という歌を合唱しました。その歌でぼくらは初めて全員で一つの事を表現できたのではないかと思います。戦争の悲惨さを学び、それを忘れないこと、平和を願う気持ちの大切さ、先人達の平和への想いを受け継ぎ、未来に平和を築くために努力するという決意を全員の声で表現できました。「繰り返す戦争（つみ）忘れゆく愚かな権力（ちから）よ」、この歌詞がぼくらに気づかせてくれたこと、それは、戦争が無意味で、何も得られないということ、命を使ってするものではないということ。戦争は大事な人や物を破壊する。それを分かっているのに、今もまだ、世界のどこかで戦争があり、終わらない。命よりも大切なものなんてないのだと。戦争はしてはならないのだということ。

